

Economic Indicators

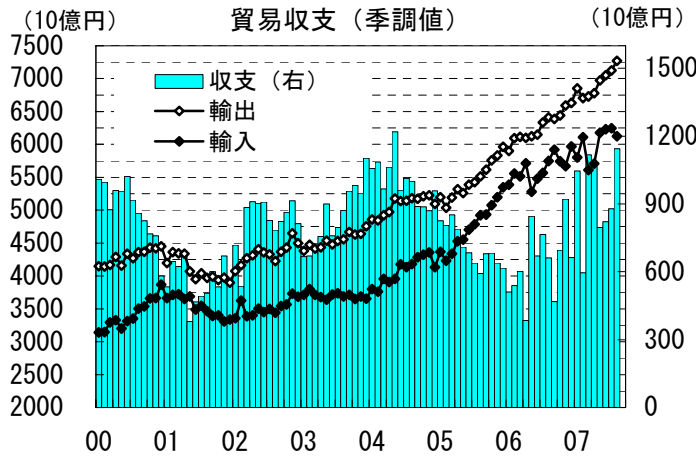
定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年8月)

発表日 2007年9月26日(水)

～輸出の持ち直しが確認される結果に～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 柵山 順子
 TEL : 03-5221-4548



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸 出	輸 入	貿易収支
06年8月	661	6411	5750	192
9月	468	6386	5918	1007
10月	696	6442	5746	613
11月	922	6591	5669	908
12月	662	6631	5969	1110
07年1月	1046	6850	5804	-3
2月	596	6704	6108	975
3月	1117	6727	5610	1628
4月	1067	6777	5710	921
5月	796	6973	6177	383
6月	822	7053	6232	1220
7月	878	7124	6246	666
8月	1145	7269	6125	743

(出所: 貿易統計・財務省)
(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年8月	17.5	5.0	12.0	13.0	7.7	10.5	16.2	13.6	2.4	6.4	4.0	4.7
9月	15.2	7.3	7.3	7.5	8.2	13.1	16.9	13.9	2.6	2.7	▲ 2.0	7.7
10月	11.6	9.7	1.7	10.3	▲ 1.3	6.7	17.5	8.8	8.0	19.7	4.3	12.3
11月	12.1	7.8	4.0	7.4	3.2	6.1	7.6	5.0	2.4	5.3	▲ 6.6	6.0
12月	9.8	5.3	4.2	6.7	▲ 2.6	8.4	7.8	3.2	4.4	▲ 10.6	8.7	7.2
07年1月	19.0	9.4	8.8	0.7	▲ 4.8	23.0	10.3	10.4	▲ 0.1	15.8	0.5	0.2
2月	9.7	11.1	▲ 1.3	1.7	▲ 0.4	2.5	10.2	2.2	7.9	3.8	4.3	16.5
3月	10.3	9.6	0.6	▲ 4.2	▲ 3.7	7.4	0.2	7.3	▲ 6.7	8.8	0.6	▲ 13.0
4月	8.2	7.8	0.4	▲ 13.1	6.6	7.0	3.5	10.3	▲ 6.1	21.2	▲ 0.5	▲ 4.7
5月	15.1	8.4	6.2	▲ 13.2	8.8	12.1	15.6	14.5	0.9	12.5	8.8	2.2
6月	16.2	9.7	5.9	▲ 8.3	7.8	13.4	10.8	17.3	▲ 5.5	4.4	5.0	▲ 5.2
7月	11.8	9.0	2.5	▲ 10.4	2.6	10.6	17.0	17.0	▲ 0.1	6.1	15.1	1.2
8月	14.5	5.9	8.2	▲ 5.2	4.6	13.0	5.7	12.0	▲ 5.6	▲ 11.0	▲ 0.3	▲ 5.2

○ 8月の貿易黒字額は2ヶ月ぶりに拡大

8月の貿易収支は7432億円(原数値)、前年比+287.6%となった。輸出金額は自動車や通信機、鉄鋼等が引き続き高い伸びを示し、全体では前年比+14.5%(前月同+11.8%)と伸びが高まった。一方、輸入金額をみると、原油価格高騰や柏崎原子力発電所停止を背景に高い伸びが続くと予想された原粗油では、価格高騰の影響からか予想以上に輸入数量が減少しており、輸入金額全体では前年比+5.7%(前月同+17.0%)と前月から伸びが大幅に鈍化した。輸出が堅調な推移を続ける一方で、輸入が大幅に鈍化したことに加え、昨年の8月には航空機輸入の拡大などを背景に貿易黒字が大幅に縮小していた影響もあり、黒字額は前年を大きく上回った。

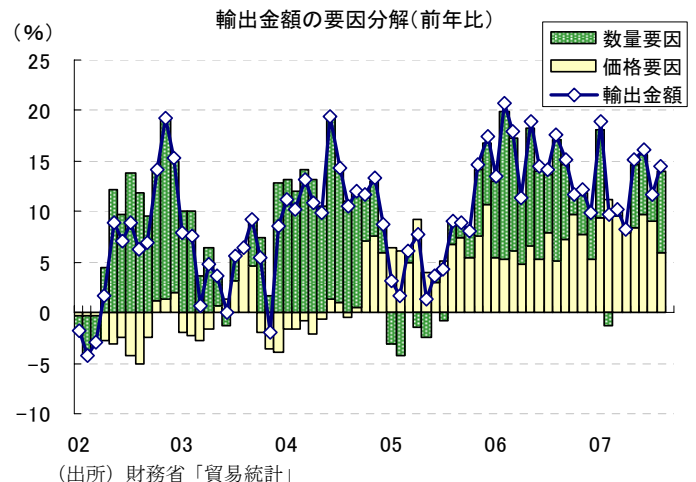
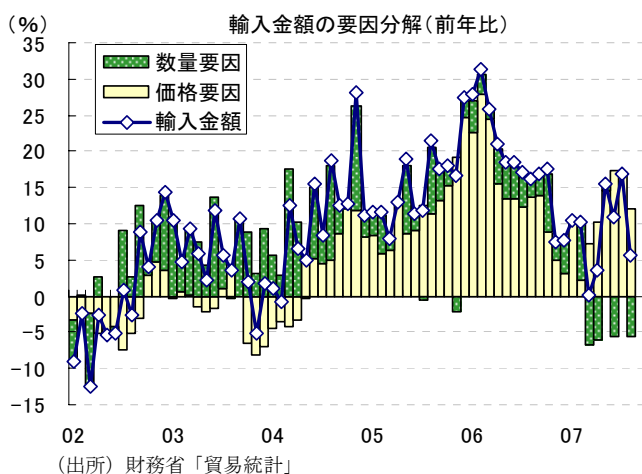
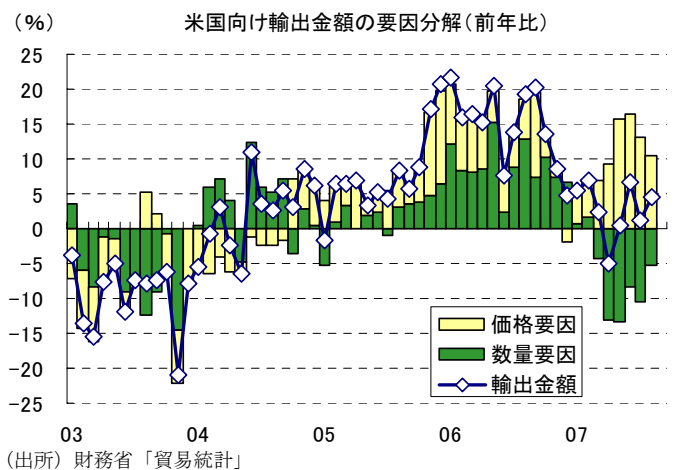
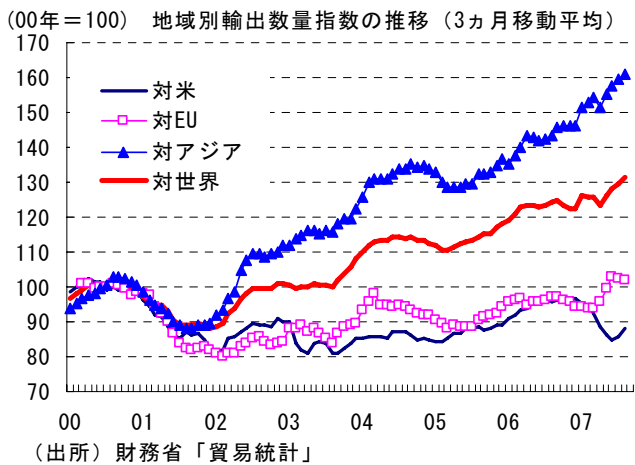
○ 自動車生産再開の影響で8月の輸出は高い伸びに

数量ベースの輸出は前年比+8.2%(前月同+2.5%)と伸びが大幅に拡大した。また、7-8月平均の輸

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

出数量を4-6月期対比で見れば+2.4%（当社で季節調整）と高い伸びになっている。7月に地震の影響で輸出が滞った反動から自動車輸出が押し上げられている面もあるが、全体として強めの結果といえる。米国製造業部門の持ち直しなどを背景に、足元で輸出は持ち直しつつあることが示されている。

地域別（数量ベース）にみると、米国向け（前年比▲5.2%←前月同▲10.4%）は前月大きく落ち込んだ自動車輸出の持ち直しを背景にマイナス幅が縮小した。また、アジア向け（前年比+13.0%←前月同+10.6%）、EU向け（同+4.6%←前月同+2.6%）は、引き続き堅調に推移し、輸出の下支えとなっている。EUおよびアジアの景気がともに好調なこと、過去の円安効果が残存していることなどが輸出の増加につながっている。

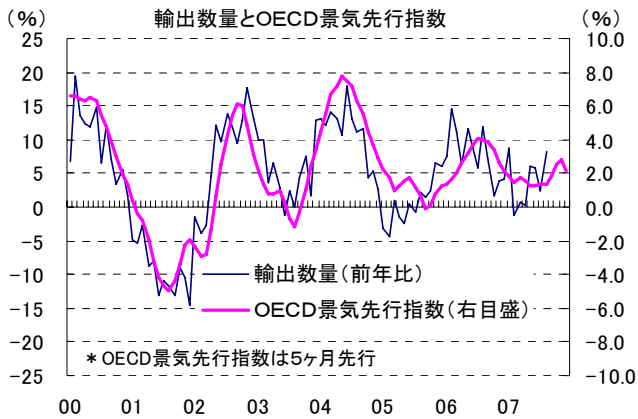


○輸出は今後増勢が強まると考えるが、楽観視ばかりできる状況でもない

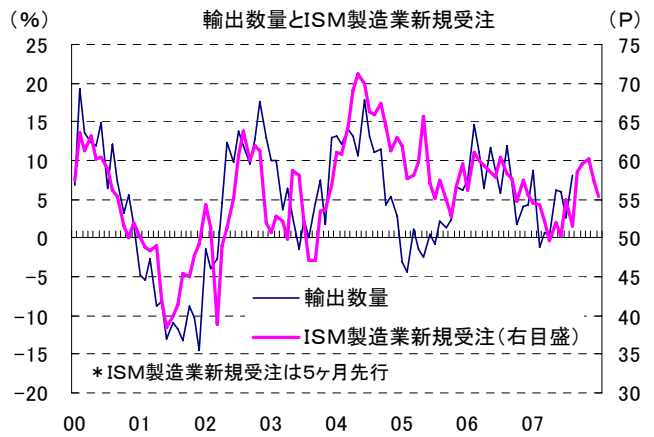
輸出の先行きについて展望すれば、米国経済がソフトランディングに成功し、世界景気の拡大が持続すると見込まれることから今後は徐々に増勢が強まってくると考える。このため、貿易黒字についても増加基調が続くだろう。

米国景気については、住宅部門での調整はしばらく続くと考えられるが、個人消費については足元で底堅さを保っている。製造業部門でも持ち直しが見られていることもあり、ソフトランディングは可能と考える。また、OECD景気先行指数、ISM製造業新規受注が高い水準を維持するなど、先行指標の堅調さも輸出は増加基調で推移というシナリオを支援する材料である。

ただし、楽観視ばかりできるような状況にはない。住宅市場の調整が深刻なものになり、米国の個人消費への悪影響が大きくなるリスク、さらに米国経済の失速がこれまで好調だった新興国の景気に影響を与えるリスクなど、米国経済の先行き不透明感は強まっている。為替の動向も含めて先行き注意が必要だ。



(出所) 財務省「貿易統計」、OECD



(出所) 財務省「貿易統計」、ISM